

地球環境学舎入試説明会
2021年4月17日 Zoomによるオンライン説明会

京都大学大学院
地球環境学堂・学舎・三才学林
の紹介

地球環境学堂長・学舎長 勝見 武

GSGES

地球環境問題の解決のために・・・

2

地球環境問題は複雑多岐にわたっており、真理探究の側面と、問題を解決する実践的側面とを有している。したがって、

- 学問としての先見性、深さと広がり具备了
「地球環境学」を開拓しうる高度な研究者
- 地球環境を持続可能な形態で改善・維持・管理する能力を有し、
地球レベルから地域レベルにわたる
具体的問題を解決しうる高度な実務者

の双方が求められている。

→ 地球環境学堂・学舎の設立

(京都大学全学の基本理念：地球社会の調和ある共存への貢献)

2002年4月設立、様々な分野の教員が参画する学際大学院

- ・ 法・政策学、経済学
- ・ 工学（環境工学、土木工学、工業化学、建築学 etc.）
- ・ 理学（大気環境化学、生物工学 etc.）
- ・ 農学（土地利用、生態学、景観保全 etc.） など

教員数47名

- ・ 教授19名、准教授15名、講師1名、助教12名
- ・ 加えて、他研究科・研究所の教員が兼担・協働教員として参画

学生数189名（2021年4月現在、博士86名、修士103名）

修了生907名（博士212名、修士695名）

地球環境学堂 — 教職員の所属組織

- ・ 3つの学廊—地球益学廊、地球親和技術学廊、資源循環学廊
- ・ 約6割の教員・研究室は5～10年ごとに交代(流動分野)

地球環境学舎 — 学生の所属組織

- ・ 地球環境学専攻(博士課程)
- ・ 環境マネジメント専攻(修士課程と博士課程)

三才学林 — 研究教育支援組織

協働分野 (他の研究科、研究所との協働体制)

地球環境学堂に所属する教員の全員が、学舎の2専攻両方の教育にあたっています。

三才学林 — 研究教育支援組織



「三才」とは天、地、人、つまり現象界全体を、「学林」とは学問する人びとの集う処を意味します。三才学林は、天地人の調和が地球規模で明るく保たれているという文明のありようとその実現への道を、学内外にまたがる対話のなかで考えることを目的とします。(HPより)



SANSAI Newsletterのバックナンバーは
ホームページから閲覧可能

三才学林 — 「地球環境フォーラム」開催例

主催：京都大学地球環境学堂

第36回京都大学地球環境フォーラム

マイクロプラスチックによる水環境汚染と私たちの暮らし



プラスチックは1835年にフランスで発明されて以来、さまざまな改良を加えて現在まで発展してきました。ところが、軽くて耐久性が強い結果、環境中に放出されたプラスチックはいたるところで残存します。一部は生物に取り込まれ、ふたは私たちに戻ってきているのかもしれない。今回は、マイクロプラスチックに関する研究事例を分かりやすく紹介したいと思います。

プログラム ◆ 13:00 受付開始 ◆ 16:30 終了予定

「淀川ワンドにおけるマイクロプラスチックと水生生物への汚染調査」
相子伸之 (大阪府立環境農林水産総合研究所)

「暮らしで発生する繊維状マイクロプラスチックの下水処理場調査」
鈴木裕識 (国立研究開発法人 土研 水環境研究グループ(水質))

「私たちの暮らしとマイクロプラスチック、ナノプラスチック」
田中周平 (京都大学地球環境学堂)

総合討論
コーディネーター：岡本侑樹 (京都大学地球環境学堂)
(注：講演者、講演内容などは事前の予告なく変更することがございます)

2020年2月1日(土) 13:30~

京都大学 北部総合教育研究棟1階 益川ホール
参加無料、先着170名まで(残席がある場合、当日参加可)

申込フォーム QRコード

参加希望者は、事前にWeb(左上にQRコードあり)から申し込み頂くか、ファックス(件名「第36回地球環境フォーラム」、氏名、所属をお送り下さい。<京都大学地球環境フォーラム事務局：地球環境学堂> Web申し込みURL: <http://www2.ges.kyoto-u.ac.jp/form/geforum36/>
Tel: 075-753-5630 Fax: 075-753-9187

主催：京都大学大学院地球環境学堂

「第31回 京都大学地球環境フォーラム」

ムラのつながり、ムラの未来



住民が減り、高齢化が進む農村地域では、持続性が危惧される集落(ムラ)がますます増加しています。この状況に対処するために期待されるのがムラをとりまく“つながり”です。近年、近隣のムラから都市、果ては海外まで、ムラをとりまくつながりには大きな変化が生まれています。農村計画学、社会ネットワーク科学、社会心理学の3つの視点から、ムラのつながりの今と未来について考えたいと思います。

プログラム
13:00 受付開始
開会の挨拶
◆ 13:30 ~ 13:40
講演

◆ 13:40 ~ 14:20 「農村のつながりの姿容：未来はつながりにかかっている？」
鬼塚 健一郎 (京都大学大学院地球環境学堂 助教)

◆ 14:20 ~ 15:00 「創造農村をいかにして作るか」
金光 淳 (京都産業大学経営学部 准教授)

◆ 15:00 ~ 15:10 休憩

◆ 15:10 ~ 15:50 「農業コミュニティにおける社会関係資本：社会心理学からの検討」
内田 由紀子 (京都大学こころの未来研究センター 准教授)

総合討論
◆ 15:50 ~ 16:40
閉会の挨拶
◆ 16:40 ~ 16:45
(注：講演者、講演内容などは事前の予告なく変更することがございます。)

2018年6月2日(土) 13:30 ~ 16:45
会場：京都大学理学部セミナーハウス
参加無料、先着100名まで(残席がある場合は、当日参加受付可能)

参加希望者は、事前にWebから申し込み頂くか、ファックス(件名「第31回地球環境フォーラム」、氏名、所属(差し支えなければ)でお送り下さい。<京都大学地球環境フォーラム事務局：地球環境学堂>
Web申し込み URL: <http://www2.ges.kyoto-u.ac.jp/form/geforum31/>
Tel: 075-753-5630 Fax: 075-753-9187

申込フォーム QRコード

三才学林 — 「はんなり京都嶋臺塾」開催例



現代の地球環境学の成果をく京ことばで練り直すことにより、
世界環境都市にふさわしい、あらたな、力のある美意識や生活文化をさぐり、
地域にひろめるための連続懇話会です。
伝統的な京町家を舞台に、今回は「京都の地下水」をテーマとして開催いたします。
皆様のご来場を、心よりお待ちしております。

はんなり京都 嶋臺塾

嶋臺塾

第40回 平成30年3月27日(火) 午後6時~8時

スヤコ
京都の井戸

京大から: 「足元の水の流れ」
乾 徹 (地球環境学 准教授)

現代の地球環境学の成果をく京ことばで練り直すことにより、
世界環境都市にふさわしい、あらたな、力のある美意識や生活文化をさぐり、
地域にひろめるための連続懇話会です。
伝統的な京町家を舞台に、今回は「朽ちる美」をテーマとして開催いたします。
皆様のご来場を、心よりお待ちしております。

はんなり京都 嶋臺塾

嶋臺塾

第35回 平成28年3月7日(月) 午後6時~8時

朽ちる美

洛中から: 「朽ちるを活かすデザインと暮らし」
山本 剛史 氏 (グラフィックデザイナー)

京大から: 「土のつとめ」
真常 仁志 (地球環境学 准教授)

司 会 : 深町加津枝 (地球環境学 准教授)
主 催 : 京都大学 地球環境学 学舎・三才学林
協 力 : 嶋 臺 (しまだい)

●お申し込み・お問い合わせ先
(定員60名・要事前申し込み)
京都大学 地球環境学 総務課
電話 075-753-5630

嶋臺本陣ギャラリー
京都市中區
東洞院通北側
075-221-5907



地球環境学舎と、カリキュラムの特色

専攻	目標	課程
地球環境学専攻	主に研究者養成	博士後期課程
環境マネジメント専攻	主に実務者養成	修士課程と博士後期課程

- ・ 幅広い学問分野の教育機会を提供
- ・ 従来の自然科学・社会科学に立脚しつつ、新しい学問領域の構築を目指す
- ・ 国内外諸機関と連携・交流し、現実問題を体験的に修得する体制を整備
- ・ 外国人教員、留学生との種々の英語授業・討議による国際性の向上

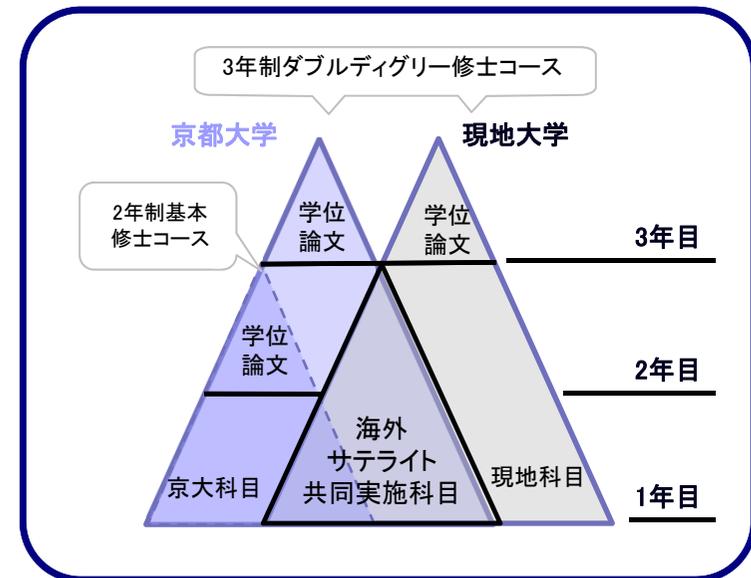




パートナー大学の例

取組み例： 海外サテライト形成によるASEAN横断型環境・社会イノベーター創出事業
(2015年度より実施)

→ 地域性を理解し、環境・社会問題の解決を実践するグローバル人材のニーズに応えるべく、ダブルディグリープログラム等を実施



ダブルディグリープログラムの仕組みの概念図

地球環境学の教育・研究における国際的ハブ形成へ

ダブル・ディグリー制度の確立
(ジョイント・ディグリーを含む)

国際共著論文の増加

単位互換制度に基づく国際
共同教育プログラムの構築

研究交流・国際共同
研究の推進

学生交流・派遣

インターン研修等

学生交流・受入

特別聴講学生
特別研究学生

海外大学と学術交流協定・学生交流協定を締結